

第1部 食肉の流通

1 と畜場の状況

(1) 全国のと畜場数は205場で、前年に比べ1場増加した。

と畜場の種類別と畜場数及び構成割合をみると、食肉卸売市場併設と畜場が27場で13.2%、食肉センターが72場で35.1%、その他が106場で51.7%を占めている。

(表1参照)

表1 種類別と畜場数の推移

単位 { と畜場数：場
比 率：%

区 分		計	食肉卸売市場併設と畜場	食 肉 セ ン タ ー	そ の 他
実 数	平.16	204	27	72	105
	17	204	27	72	105
	18	205	27	72	106
構 成 比	平.16	100.0	13.2	35.3	51.5
	17	100.0	13.2	35.3	51.5
	18	100.0	13.2	35.1	51.7

(2) 豚及び成牛のと畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数をみると、豚を処理したと畜場数は173場、と畜頭数は1,621万頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、10万頭以上のと畜場数は64場、と畜頭数は1,268万2千頭でそれぞれ37.0%、78.2%を占めている。

また、成牛を処理したと畜場数は156場、と畜頭数は120万9千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、1万頭以上のと畜場数は40場、と畜頭数は76万2千頭でそれぞれ25.6%、63.0%を占めている。(表2参照)

表2 と畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数の推移

単位 { と畜場数：場
と畜頭数：千頭
構成比：%

区 分			豚					成 牛				
			計	2万頭未 満	2～5	5～10	10万頭以 上	計	1,000頭未 満	1,000～ 5,000	5,000～ 1万	1万頭以 上
と 畜 場 数	実 数	平.16	172	44	32	31	65	162	37	38	42	45
		17	172	47	30	30	65	159	32	39	46	42
		18	173	48	32	29	64	156	29	38	49	40
と 畜 頭 数	実 数	平.16	16 596	155	1 072	2 322	13 048	1 256	7	111	300	837
		17	16 243	213	1 046	2 187	12 797	1 221	5	104	325	787
		18	16 210	204	1 154	2 170	12 682	1 209	5	94	348	762
と 畜 頭 数	構 成 比	平.16	100.0	0.9	6.5	14.0	78.6	100.0	0.6	8.9	23.9	66.7
		17	100.0	1.3	6.4	13.5	78.8	100.0	0.4	8.6	26.6	64.4
		18	100.0	1.3	7.1	13.4	78.2	100.0	0.4	7.8	28.8	63.0

注：1 当該畜種の入場があったと畜場のみを集計値である。

2 と畜頭数の構成比は、原数（Ⅱ統計表における表章単位。以下同じ）より算出している。

2. 肉豚の概要

(1) 豚の出荷状況

ア 豚の出荷(と畜)頭数は1,621万頭で、米国産牛肉輸入停止措置による代替需要等から平成16年まで増加傾向で推移していたものの、飼養頭数の減少等から前年に比べ0.2%(3万2千頭)減少した。(図1、表3参照)

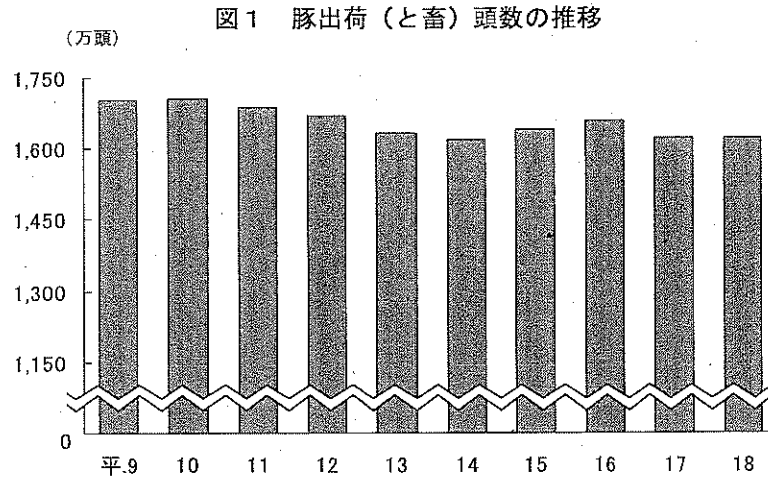


表3 豚出荷(と畜)頭数の推移

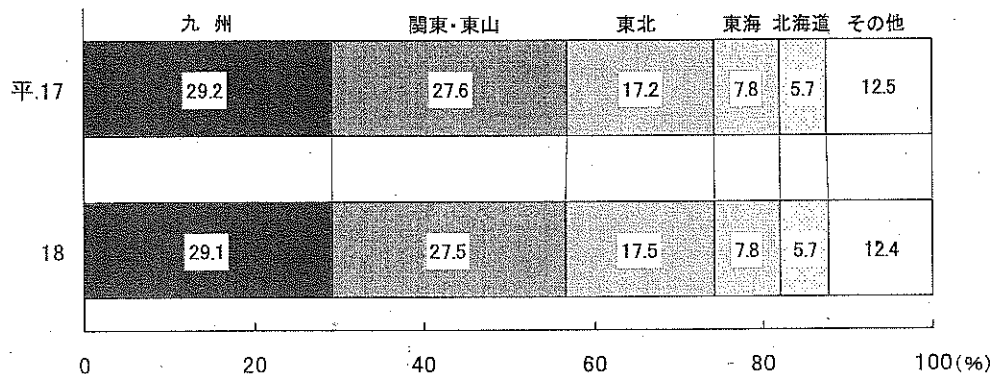
単位 { 実数: 千頭
比率: %

年次	平.9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
実数	17,021	17,077	16,872	16,717	16,329	16,183	16,396	16,596	16,243	16,210
対前年比	101.0	100.3	98.8	99.1	97.7	99.1	101.3	101.2	97.9	99.8

注: 対前年比は、原数より算出している。

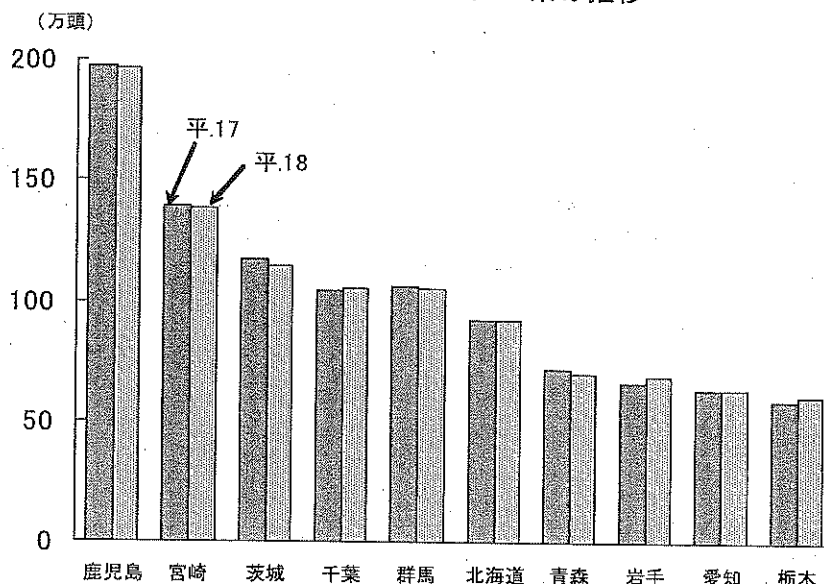
イ 豚の出荷頭数の全国農業地域別割合をみると、鹿児島、宮崎を中心とする九州及び茨城、群馬を中心とする関東・東山が前年に比べそれぞれ0.1ポイント減少し、29.1%(472万頭)、27.5%(445万2千頭)となったが、青森、岩手を中心とする東北が前年に比べ0.3ポイント増加し、17.5%(283万8千頭)となっており、この3地域を合わせた割合は、全体の74.1%(1,200万9千頭)を占めている。(図2参照)

図2 豚出荷頭数の全国農業地域別割合の推移



ウ 豚の主産県の出荷頭数をみると、前年に比べ千葉、北海道、岩手、栃木は増加したものの、鹿児島、宮崎、茨城、群馬、青森、愛知は減少した。
 また、この上位10県で全国出荷頭数の62.7% (1,017万頭)を占めている。
 (図3参照)

図3 豚出荷頭数の上位10県の推移



(2) 食肉卸売市場における豚肉の状況

ア 取引状況

食肉卸売市場(中央卸売市場10、指定市場19)における豚肉の取引成立頭数は214万3千頭で、前年に比べ1.7%(3万7千頭)減少した。市場別では、中央卸売市場が89万2千頭で前年に比べ1.6%(1万5千頭)減少し、指定市場は125万1千頭で前年に比べ1.7%(2万2千頭)減少した。(表4参照)

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は13.2%で、前年に比べ0.2ポイント減少した。(表5参照)

表4 食肉卸売市場の豚肉の取引成立頭数の推移

区分	食肉卸売市場	単位	
		中央卸売市場	指定市場
実数	平. 16	2 289	1 321
	17	2 180	1 273
	18	2 143	1 251
対前年比	平. 16	100.5	103.4
	17	95.2	96.4
	18	98.3	98.3

注：対前年比は、原数より算出している。

表5 豚肉の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

単位 { 頭数：千頭
割合：%

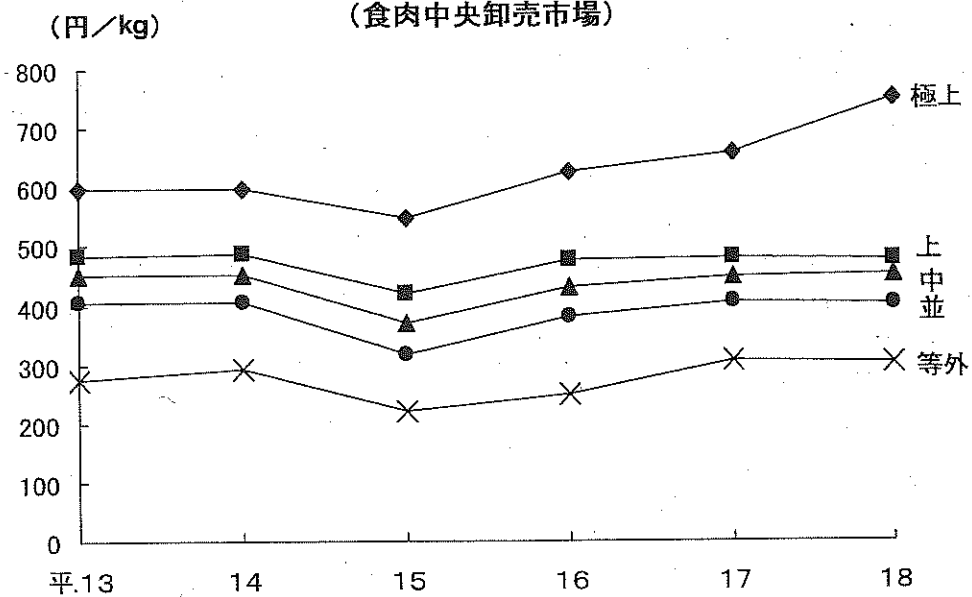
年次	全国と畜頭数		割合
	全国と畜頭数	食肉卸売市場	
平. 16	16 596	2 289	13.8
17	16 243	2 180	13.4
18	16 210	2 143	13.2

注：割合は、原数より算出している。

イ 卸売価格の動向（1kg当たり平均価格）

食肉中央卸売市場における豚肉の規格別卸売価格は、「極上」が751円、「上」が476円、「中」が450円、「並」が403円、「等外」が302円で、「極上」及び「中」は前年に比べそれぞれ14.3%（94円）、0.2%（1円）上昇した。「上」、「並」及び「等外」は前年に比べそれぞれ0.6%（3円）、1.0%（4円）、1.3%（4円）低下した。（図4参照）

図4 豚肉の規格別卸売価格の推移
（食肉中央卸売市場）



3 肉牛の概要

(1) 成牛の出荷状況

ア 成牛の出荷(と畜)頭数は120万9千頭で、米国産牛肉輸入停止措置による卸売価格の上昇等から16、17年にかけて前進出荷された影響により前年に比べ1.0%(1万2千頭)減少した。

このうち、和牛は44万9千頭で前年に比べ2.9%(1万4千頭)減少した。乳牛は74万1千頭、その他の牛は1万9千頭で前年に比べそれぞれ0.2%(1千頭)、2.4%(445頭)増加した。

成牛の種類別出荷頭数割合をみると、和牛が37.2%で前年に比べ0.7ポイントの減少に対し、乳牛は61.2%で前年に比べ0.7ポイント増加した。(図5、表6参照)

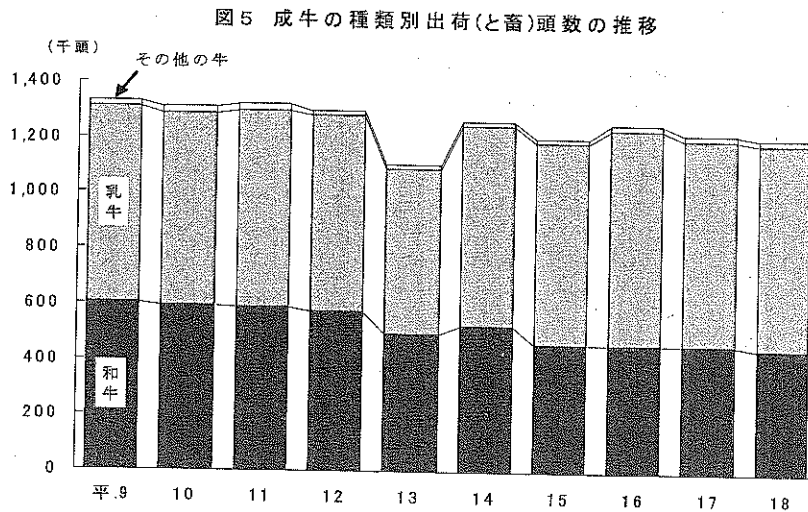


表6 成牛の種類別出荷(と畜)頭数の推移

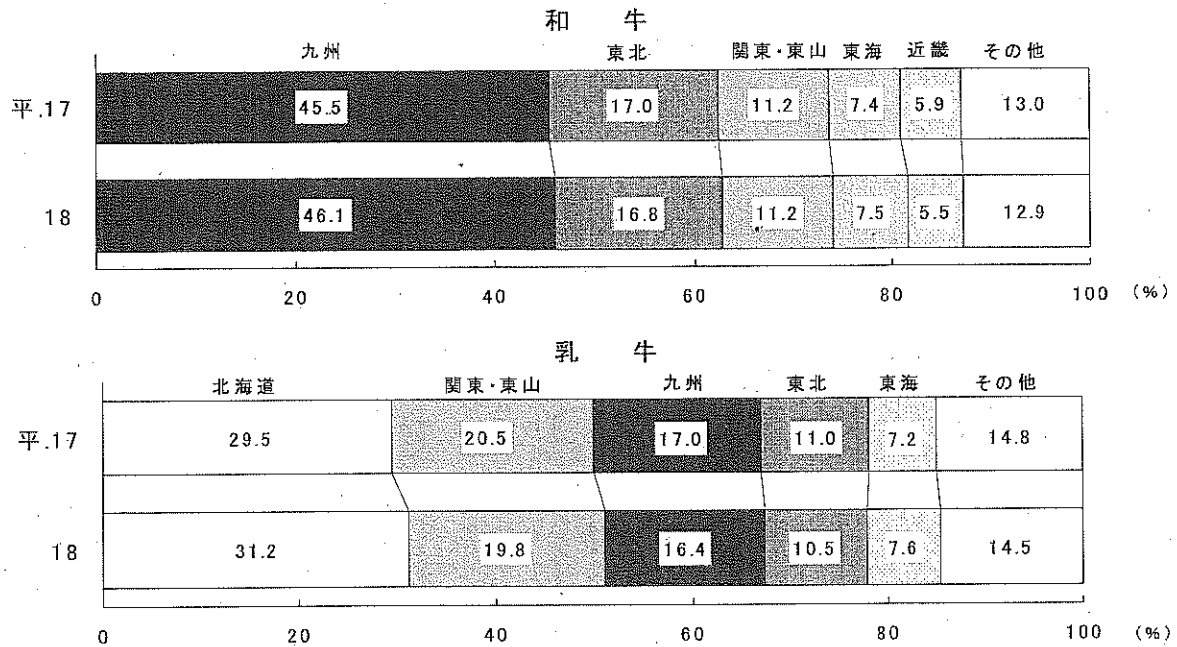
年次		平.9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
実数	成牛計	1 330	1 310	1 322	1 297	1 103	1 263	1 202	1 256	1 221	1 209
	和牛	603	596	589	577	496	527	461	464	463	449
	乳牛	708	693	708	705	595	722	726	773	739	741
	その他の牛	19	22	25	15	13	14	14	18	19	19
対前年比	成牛計	96.3	98.5	100.9	98.1	85.1	114.4	95.2	104.5	97.2	99.0
	和牛	101.1	98.8	98.7	98.0	85.9	106.3	87.5	100.6	99.7	97.1
	乳牛	92.5	97.8	102.2	99.6	84.3	121.4	100.6	106.5	95.6	100.2
	その他の牛	103.0	113.7	117.2	59.3	86.2	106.1	104.2	129.1	102.5	102.4
構成比	成牛計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	和牛	45.4	45.5	44.5	44.5	44.9	41.7	38.4	37.0	37.9	37.2
	乳牛	53.2	52.9	53.6	54.4	53.9	57.2	60.4	61.6	60.5	61.2
	その他の牛	1.4	1.6	1.9	1.2	1.2	1.1	1.2	1.5	1.5	1.6

注：対前年比及び構成比は、原数より算出している。

イ 成牛の種類別出荷頭数の全国農業地域別割合をみると、和牛は、鹿児島、宮崎を中心とする九州が46.1%(20万7千頭)と最も高く、次いで、宮城、岩手を中心とする東北が16.8%(7万6千頭)、栃木、茨城を中心とする関東・東山が11.2%(5万頭)となっており、この3地域を合わせた割合は74.1%(33万3千頭)となっている。

また、乳牛は、北海道が31.2% (23万1千頭)と最も高く、次いで、栃木、群馬を中心とする関東・東山が19.8% (14万6千頭)、熊本、宮崎を中心とする九州が16.4% (12万1千頭)となっており、この3地域を合わせた割合は67.3% (49万9千頭)となっている。(図6参照)

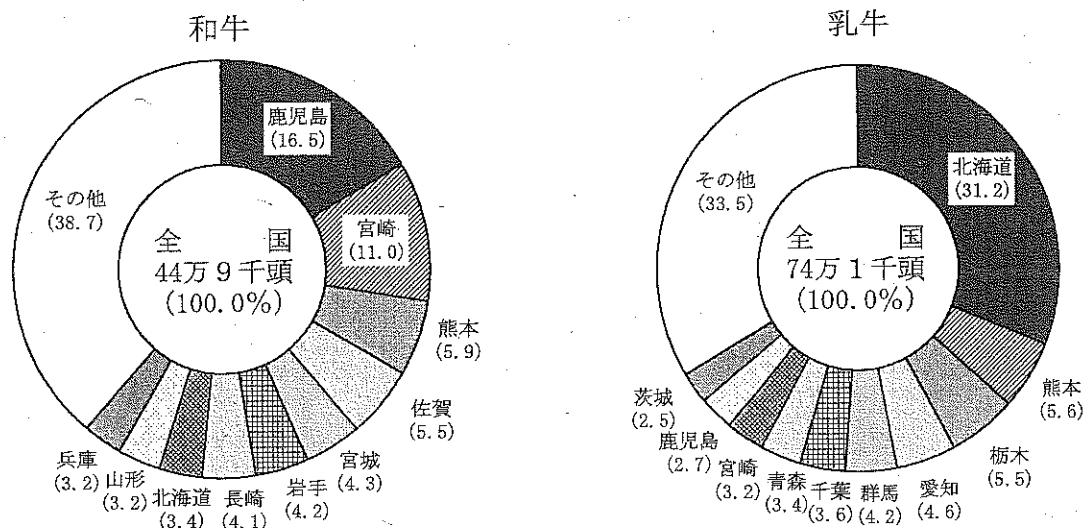
図6 成牛の種類別出荷頭数の全国農業地域別割合



ウ 成牛の種類別出荷頭数の都道府県別割合をみると、和牛は、鹿児島が16.5% (7万4千頭)と最も高く、次いで、宮崎が11.0% (5万頭)、熊本が5.9% (2万7千頭)となっている。

また、乳牛は、北海道が31.2% (23万1千頭)と最も高く、次いで、熊本が5.6% (4万1千頭)、栃木が5.5% (4万1千頭)となっている。(図7参照)

図7 成牛の種類別出荷頭数の都道府県別割合



(2) 食肉卸売市場における牛肉の状況

ア 取引状況

食肉卸売市場（中央卸売市場10、指定市場19）における成牛の取引成立頭数は41万7千頭で、前年に比べ1.8%（7千頭）減少した。市場別では、中央卸売市場は30万7千頭、指定市場は10万9千頭で、それぞれ前年に比べ1.9%（6千頭）、1.5%（2千頭）減少した。

畜種別では、和牛は18万9千頭、乳牛は22万3千頭で、それぞれ前年に比べ2.1%（4千頭）、1.3%（3千頭）減少した。（表7参照）

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は34.5%で、前年に比べ0.2ポイント減少した。（表8参照）

表7 食肉卸売市場の牛肉の取引成立頭数の推移

区 分	食肉卸売市場	中央卸売市場	指定市場	畜 種 別			
				和牛	乳牛	その他の牛	
				単位 { 成立頭数：千頭 比 率：%			
実 数	平. 16	452	335	117	197	252	3
	17	424	313	111	193	226	5
	18	417	307	109	189	223	4
対前年比	平. 16	105.4	105.6	105.0	102.5	106.9	304.9
	17	93.8	93.5	94.9	98.2	89.7	150.1
	18	98.2	98.1	98.5	97.9	98.7	91.0

注：対前年比は、原数より算出している。

表8 牛肉の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

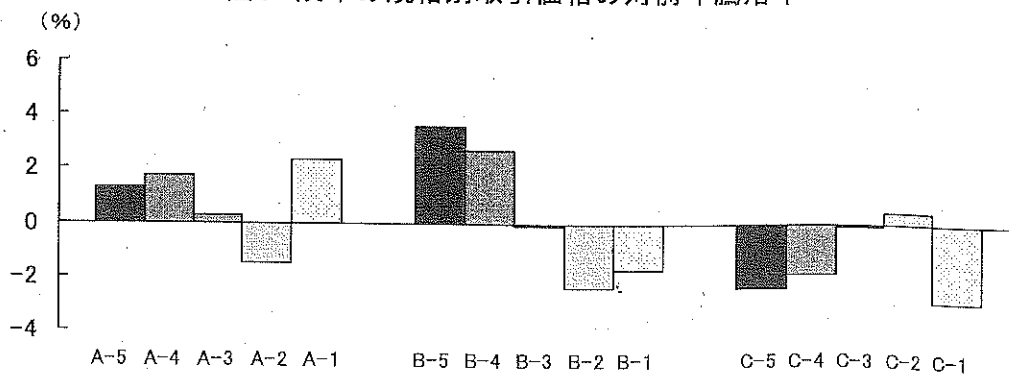
年 次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	
		食肉卸売市場	割 合
平. 16	1 256	452	36.0
17	1 221	424	34.7
18	1 209	417	34.5

注：割合は、原数より算出している。

イ 卸売価格の動向

食肉卸売市場における牛肉の規格別卸売価格を対前年騰落率で見ると、「A-5」、「A-4」、「B-5」、「B-4」規格等の上位等級品において、前年を上回ったものの、その他の規格は前年を下回った。（図8参照）

図8 成牛の規格別取引価格の対前年騰落率



第2部 鶏卵の流通

1 鶏卵の生産量

鶏卵生産量は248万8千tで、平成17年に発生した鳥インフルエンザの影響により茨城で大幅に減少したものの、他の県で増加したこと等から前年に比べ0.3%(7千t)増加した。

これを都道府県別割合で見ると、鹿児島が6.8%(16万8千t)と最も高く、次いで、千葉が6.4%(15万9千t)、愛知が5.4%(13万4千t)となっている。(図9、表9参照)

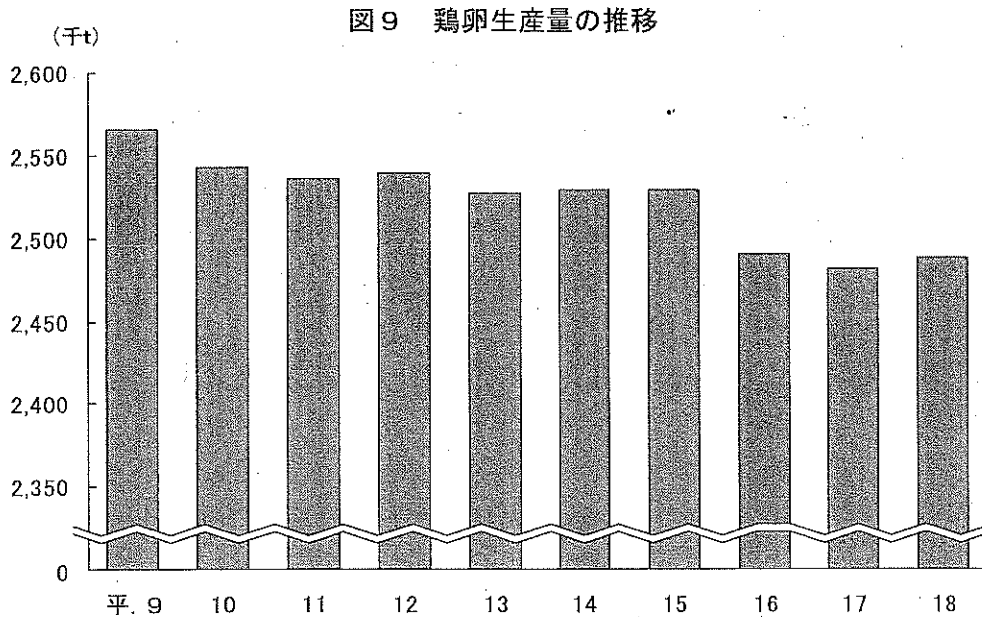


表9 鶏卵生産量 (全国及び上位10都道府県)

単位 { 生産量: 千t
比率: %

区 分	生 産 量		対前年比	平. 18 構成比
	平. 18	17		
全 国	2 488	2 481	100.3	100.0
鹿 児 島	168	163	103.1	6.8
千 葉	159	160	99.6	6.4
愛 知	134	134	99.8	5.4
茨 城	122	172	70.6	4.9
広 島	116	114	101.3	4.7
岡 山	108	105	102.8	4.3
北 海 道	107	106	101.3	4.3
新 潟	96	90	107.2	3.9
青 森	89	87	102.1	3.6
岐 阜	86	82	105.3	3.5
そ の 他	1 303	1 268	102.7	52.4

注: 1 四捨五入により計と内訳が一致しないことがある。

2 対前年比及び構成比は、原数より算出している。

2 鶏卵の出荷状況

鶏卵出荷量は、241万1千tで、前年に比べ0.4%(9千t)増加した。

これを全国農業地域別割合で見ると、千葉、茨城を中心とする関東・東山が最も多く、出荷量の22.1%(53万2千t)を占めている。次いで、鹿児島、福岡を中心とする九州が15.7%(37万8千t)、となっている。(表10参照)

表10 鶏卵の全国農業地域別出荷量

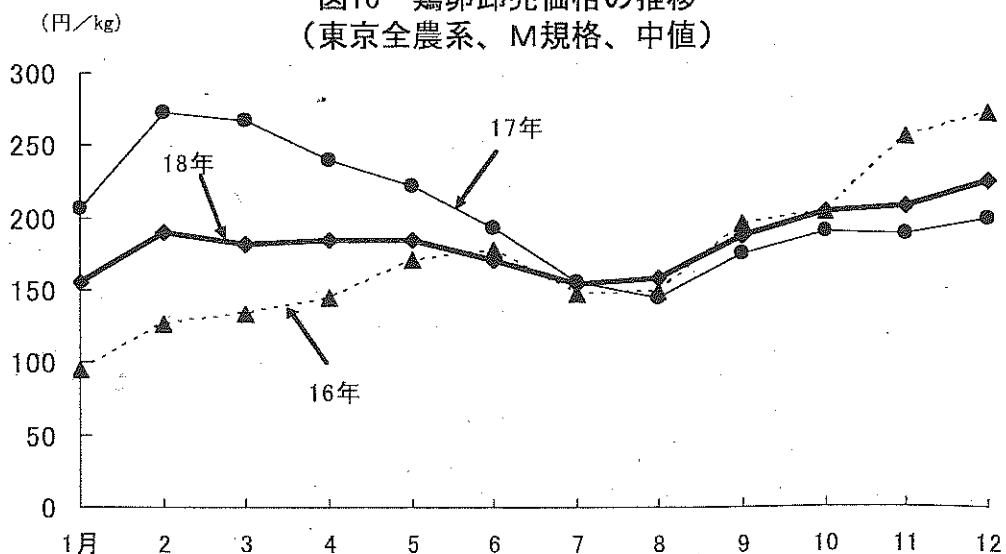
区 分	出 荷 量		対前年比	平. 18 構成比
	平. 18	17		
全 国	2 411	2 402	100.4	100.0
北 海 道	105	105	100.4	4.4
東 北	342	321	106.6	14.2
北 陸	144	138	104.6	6.0
関東・東山	532	576	92.4	22.1
東 海	339	336	101.1	14.1
近 畿	130	117	110.5	5.4
中 国	290	283	102.4	12.0
四 国	129	129	99.8	5.4
九 州	378	373	101.5	15.7
沖 縄	22	25	87.1	0.9

単位 { 生産量：千t
比率：%

注：対前年比及び構成比は、原数より算出している。

(参考) 卸売価格 (鶏卵市況情報)

図10 鶏卵卸売価格の推移
(東京全農系、M規格、中値)



第3部 食鳥の流通

1 食鳥の処理量

食鳥処理羽数は7億2,135万羽、処理重量は193万8,620 tで、肉用若鶏のえ付け羽数が増加していること等から、前年に比べそれぞれ2.0%(1,425万羽)、2.5%(4万8,062 t)増加した。(表11参照)

表11 全国の食鳥処理量・製品生産量(平成18年)

区 分	処 理 量 (生 体)				製 品 生 産 量					
	実 数		対前年比(%)		実 数			対前年比(%)		
	羽 数	重 量	羽 数	重 量	計	と 体・ 中 ぬ き	解 体 品	計	と 体・ 中 ぬ き	解 体 品
計	721 347	1 938 620	102.0	102.5	1 151 066	96 351	1 054 715	104.5	99.7	105.0
肉 用 若 鶏	621 820	1 750 297	102.5	102.8	1 053 891	63 711	990 180	104.8	100.9	105.1
その他の肉用鶏	8 851	26 773	103.6	104.1	15 894	4 234	11 660	105.8	99.0	108.5
廃 鶏	88 010	155 978	99.0	99.2	78 545	27 651	50 894	100.6	97.1	102.7
その他の食鳥	2 666	5 572	98.1	100.8	2 736	755	1 981	100.6	106.2	98.6

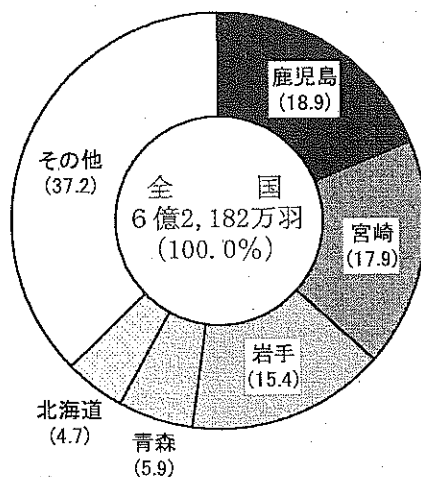
単位 { 羽 数: 千羽
重量・製品生産量: t

(1) 肉用若鶏

ア 全国の処理羽数は6億2,182万羽、処理重量は175万297 tで、前年に比べそれぞれ2.5%(1,492万羽)、2.8%(4万8,296万 t)増加した。(表11参照)

イ 都道府県別の出荷羽数割合をみると、鹿児島が18.9%(1億1,742万羽)と最も多く、次いで宮崎が17.9%(1億1,100万羽)、岩手が15.4%(9,548万羽)の順となっており、この3県で全国の約5割を占めている。(図11参照)

図11 肉用若鶏の都道府県別出荷羽数割合

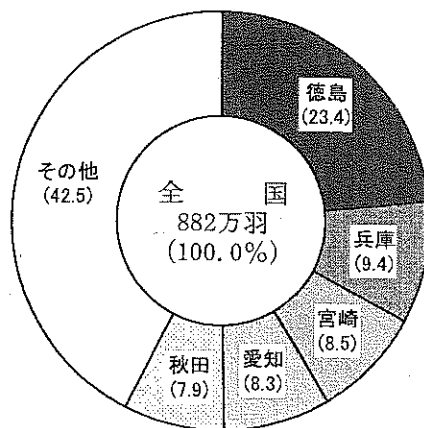


(2) その他の肉用鶏(地鶏等)

ア 全国の処理羽数は885万羽、処理重量は2万6,773 tで、前年に比べそれぞれ3.6%(31万羽)、4.1%(1,051t)増加した。(表11参照)

イ 都道府県別の出荷羽数割合をみると、徳島が23.4% (207万羽) と最も多く、次いで兵庫が9.4% (83万羽)、宮崎が8.5% (75万羽)、愛知が8.3% (74万羽)、秋田が7.9% (70万羽) となっており、この5県で全国の約6割を占めている。(図12参照)

図12 その他の肉用鶏(地鶏等)の都道府県別出荷羽数割合



(3) 廃鶏

全国の処理羽数は8,801万羽、処理重量は15万5,978 t で前年に比べそれぞれ1.0% (93万羽)、0.8% (1,327t) 減少した。(表11参照)

(4) その他の食鳥

全国の処理羽数は267万羽、処理重量は5,572 t で前年に比べそれぞれ1.9% (5万羽) 減少、0.8% (42t) 増加した。(表11参照)

2 製品生産量(と体・中ぬき及び解体品)

食鳥処理場における食鳥の製品生産量(と体・中ぬき及び解体品)は115万1,066 t で、前年に比べ4.5% (4万9,942t) 増加した。

このうち、大部分を占める肉用若鶏についてみると、製品生産量は105万3,891 t で前年に比べ4.8% (4万8,564t) 増加した。

これを処理別にみると、と体・中ぬきは6万3,711 t、解体品は99万180 t で、前年に比べそれぞれ0.9% (572t)、5.1% (4万7,992t) 増加した。(表11参照)

3 肉用若鶏の飼養（出荷）戸数・羽数（平成19年2月1日現在）

(1) 平成19年2月1日現在の肉用若鶏の飼養戸数は2,583戸で前年に比べ0.3%（7戸）減少したが、飼養羽数は1億529万羽で前年に比べ1.5%（160万羽）増加した。このことから、1戸当たり飼養羽数は4万800羽で前年に比べ2.0%（800羽）増加した。（表12参照）

表12 肉用若鶏の飼養戸数・羽数及び1戸当たりの飼養羽数
（平成19年2月1日現在・全国）

区 分	飼養戸数	飼養羽数	1戸当たり飼養羽数
	戸	千羽	千羽
平 .18	2 590	103 687	40.0
.19	2 583	105 287	40.8
対前年比 (%)	99.7	101.5	102.0

(2) 年間出荷戸数は3,065戸で前年に比べ1.8%（55戸）減少し、年間出荷羽数は6億2,182万羽で前年に比べ2.5%（1,492万羽）増加した。

これを年間出荷羽数規模別にみると、50万羽以上の階層は、戸数では6.0%の割合であるが、出荷羽数では34.0%を占めている。

なお、1戸当たり出荷羽数は20万3千羽で、前年に比べ4.3%（8,400羽）増加した。（表13参照）

表13 肉用若鶏の年間出荷羽数規模別出荷戸数・出荷羽数の推移

単位 { 戸数 : 戸
羽数 : 千羽
比 率 : %

区 分		計	5万羽未満	5～10	10～20	20～30	30～50	50万羽以上
出荷戸数	平 .17	3 120	673	572	1 049	404	252	170
	.18	3 065	671	542	1 001	432	234	185
	対前年比	98.2	99.7	94.8	95.4	106.9	92.9	108.8
	構成比							
	平 .17	100.0	21.6	18.3	33.6	12.9	8.1	5.4
	.18	100.0	21.9	17.7	32.7	14.1	7.6	6.0
出荷羽数	平 .17	606 898	16 973	42 245	155 260	100 182	96 709	195 529
	.18	621 820	16 732	42 294	148 567	110 175	92 582	211 470
	対前年比	102.5	98.6	100.1	95.7	110.0	95.7	108.2
	構成比							
	平 .17	100.0	2.8	7.0	25.6	16.5	15.9	32.2
	.18	100.0	2.7	6.8	23.9	17.7	14.9	34.0
1戸当たり 出荷羽数	平 .17	194.5	25.2	73.9	148.0	248.0	383.8	1 150.2
	.18	202.9	24.9	78.0	148.4	255.0	395.6	1 143.1
	対前年比	104.3	98.8	105.5	100.3	102.8	103.1	99.4

4 食鳥処理場数

食鳥を処理した全国の食鳥処理場数は633場で、前年に比べ1.6%(10処理場)減少した。

また、1処理場当たり処理重量は3,063 tで前年に比べ4.2%(123 t)増加した。

(表14参照)

表14 食鳥処理場数及び1処理場当たり処理重量(全国)

区分	1) 食鳥処理場	食鳥の種類			
		肉用若鶏	その他の肉用鶏	廃鶏	その他の鳥
処理場数					
平. 17	643	188	186	321	96
18	633	185	174	313	94
対前年比 (%)	98.4	98.4	93.5	97.5	97.9
1処理場当たりの処理重量					
平. 17	2 940	9 053	138	490	58
18	3 063	9 461	154	498	59
対前年比 (%)	104.2	104.5	111.6	101.6	101.7

単位 { 処理場数:場
処理重量:t

注:1)は食鳥を処理した実処理場数であり、1処理場で複数の処理を行っている場合があることから、食鳥の種類の数とは一致しない。

(参考) 卸売価格(食鳥市況情報)

図13 プロイラー卸売価格
(東京、中値、もも肉)の推移

